

2026（令和8）年度 NPO 法人北海道遺産協議会事業計画（案）

<2026（令和8）年度のポイント>

ビジョンの策定を通じた多くの関係者との思いの共有

昨年度から着手している「第2次北海道遺産協議会長期ビジョン」の作成を通じて、北海道遺産活動の成果の確認と地域の担い手たちの思いや現状を知ること、担い手の皆さんとともにある協議会の姿・北海道遺産活動が目指したい将来像を描きます。

北海道遺産の資源のシェアリングによる地域団体支援の強化

助成事業の広域先導モデル事業支援をはじめとする担い手団体支援を積極的に行うほか、北海道遺産に関する情報のアーカイブ化や基盤ツールの共有化の検討を進め、地域団体が活用できる共有財産の整備を進めます。

多様な主体相互の「関わり"しろ"」を活かした事業展開

パートナーシップ事業や担い手の地域活動と連携した取組、また、部会メンバーの企画提案事業などの実施を推進し、それぞれの専門分野を活かした相乗効果や課題解決につなげるだけでなく、多様な分野の方々のそれぞれの立場での参加を促す「関わりの"しろ"」を備えた北海道遺産活動を実践します。

■北海道遺産の目指すべき方向性（案）～北海道遺産の新たな長期ビジョン（策定中）より

目指す将来像

「守るから楽しい、つながるからうれしい」—SHARING HERITAGE makes Well-being—

北海道遺産は、過去を守るだけではなく、未来をつくるための仕組み
遺産と人、人と人、そして世代をつなぎながら価値を高め、“利息”をつけて次の世代へ

アクションプラン案

- 価値を保存するだけではなく、遺産と人、人と人、過去と未来をつなぐ関係性を生み出し続ける
- 単なるモノや場所ではなく、その背景にあるナラティブをいかに伝え、共有し、語り継いでいくか
- 多様な人々が関わり支える仕組みへと転換

「関わりをひらく」 —「余白」と「しろ*」を広げ、 「関（しきい）を下げる—

- 北海道遺産「ヘリテージウィーク」の枠組み拡大
- 教育素材の開発・学校連携の推進
- 北海道遺産アンバサダー制度の創設
- 北海道遺産検定の実施
- デジタルを活用した参加・支援の間口拡大
- 北海道遺産ストーリーのデジタル発信強化

「関係性を育てる」 —過性から継続へ—

- 「ムラの宝物さがしプロジェクト」の再構築とヘリテージソンの展開
- 語り手（インタープリター・ガイド）育成の体系化
- 企業連携の強化
- ボランティアツーリズム／再生ツーリズムの展開
- 地域伴走支援の強化

「価値を高める」 —蓄積し、次世代へつなぐ—

- 北海道遺産ストーリーの体系化・アーカイブ化
- 北海道遺産データ基盤の整備（仮）カルテの作成
- 教育・研究との連携強化
- 地域間ネットワークの構築
- 評価・可視化の仕組みの構築
- 次世代への継承プログラムの構築
- 国内外への発信・交流の推進

*しろ（関わり方）： 協働シーン、資源・機能のシェア領域

<2026（令和8）年度事業（案）>

1. 一般会計部門 事業計画（案）

（1）保全活用推進事業

「お茶で北海道を美しくキャンペーン」寄付金による、各地域への助成（総額 80 万円）を実施します。北海道遺産の環境・景観の保全活動に対して助成を行います。

〇800 千円

※助成先については「別添資料 3：2026（令和 8）年度株式会社北海道伊藤園「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン寄付金による助成先一覧」参照

（2）地域活動促進支援事業

「ほっかいどう遺産 WAON」寄付金により、これまで同様の募集・助成をおこなう「一般枠」のほかに、他地域のモデルとなる「広域先導モデル枠」等を設定し、より効果的に地域活動を支援します。また、助成事業の募集に当たっては、会員等のほか、道及び道教育委員会をはじめとした、地域創生や文化・観光・産業・まちづくり、社会教育等の振興に取り組む機関等広く周知を図ってまいります。

〇15,557 千円（※1）～3）事業費）

1）一般枠事業

昨年度までと同様に、各地域活動の持続性・発展性を考慮し事業を選定します。地域活動の活性化、地域や北海道遺産の積極的な広報活動を促進します。

特に北海道遺産としての意義や物語を見える化するよう、助言・支援に努めます。

2）縄文遺産活動支援枠事業

2022（令和 4）年に発行されている「ほっかいどう遺産 WAON」カードの「世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」応援カード」の主旨に基づき、縄文遺産活動を支援します。

3）広域先導モデル枠事業

広域化・共同化・複合化等他地域のモデルとなる事業に対し、事業の規模や効果に応じ、助成額の増額も含め戦略的な支援を行います。

<例>

- *多文化（芸術、食文化、音楽等）の横断的な魅力発信や交流発展に資する取組
- *広域かつ多団体連携での北海道遺産推進の取組み
- *親和性のある団体等との広域周遊モデルの実証
- *先進の技術や表現方法を用いたデジタルコンテンツの制作

※助成先については「別添資料 4：2026（令和 8）年度「ほっかいどう遺産 WAON」助成先一覧」参照

4）広域先導モデル事業支援

助成事業の中でも北海道遺産各地を先導するモデル事業となることを期待する「広域先導モデル枠」事業に対し、各事業のよりよい実施を目的に協議会が後方支援を行う。

（3）法人運営

地域活動の支援・外部関係者との調整など、団体のプラットフォーム機能を高めるとともに、より公益性の高い法人を目指し認定 NPO 法人の資格取得に向けて準備を進めます。多くの北海道遺産ファン・支援者との交流の機会を設け、併せて協議会会員のインセンティブを高めることで寄付者・会員の拡大につなげます。また、企業等との協働事業や関係団体・機関との協定締結を推進するとともに、公的助成の効果的な活用も行い、経営資源の多角化と運営基盤の安定化を図ります。

<その他>

- ・ 総会・理事会の開催

今年度理事会は、①総会議案確認（5月） ②ビジョン最終確認 ③年度事業中間報告 ④助成事業募集状況報告および次年度計画・予算案審議の計4回程度を予定する。

- ・ WEB・SNS 管理・運用（通年）

〇1,833 千円

2. 特別会計部門 事業計画（案）

（1）普及啓発活動事業

1) プロモーション基盤整備事業

- ・ 本年秋をめどに取りまとめ予定の新ビジョンを広く周知するため概要版を制作・配布します。
- ・ 既存広報媒体・販売商品の更新・必要な増刷などを適宜実施します。
- ・ 事業者からのイベント等への出展依頼、出稿依頼などに対応し協議会のプロモーション活動を行います。

〇1,770 千円

2) 企業等の提案による「パートナーシップ事業」の試行

- ・ 企業や団体が有する資源と協議会が有する情報やネットワーク、人的資源、事業等を結びつけ、より効果的な北海道遺産事業の推進が図られるよう、企業等からの提案を募集し、協議会と提案事業者等が協働で各事業を推進することを目的に、昨年度に引き続き、企業等の提案を呼びかけ、以下の「連携事業」等を推進します。

〇4,900 千円

①連携事業

- ・ 協議会の基幹事業として行ってきた事業や、年度の重点目標に合わせて実施したい事業を「戦略テーマ」として位置づけ、協議会と提案事業者等が協働で事業を実施します。

【2026（令和8）年度戦略テーマ】

a. 「縄文まつり 2026@八雲噴火湾パノラマパーク」における北海道遺産の PR（7/18, 19）

NEXCO 東日本との連携により、同社が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録5周年を記念して実施する「縄文まつり 2026@八雲噴火湾パノラマパーク」に、「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」の担い手たちと共に出展し北海道遺産25周年をPRします。イベント企画段階からNEXCO 東日本と連携することにより、縄文や北海道遺産を多くの皆さんに知っていただく機会とします。

b. 「なよろナイト」における北海道遺産の PR（10/12）

なよろ観光まちづくり協会との連携により、同協会主催「なよろナイト」内で、北海道遺産25周年をPRし、北海道遺産「天塩川」に纏わる物語や北海道遺産マップを掲出するなど、様々な媒体を活用し、多様な人々に北海道遺産を知っていただく機会とします。

c. 北海道遺産25周年記念「北海道ヘリテージマンス 2026」（10/13～11/13）

◎メイン事業① 北海道遺産交流会議 in サッポロビール博物館（11/2）

今年、開拓使麦酒醸造所誕生150周年を迎えるサッポロビールとの連携で、北海道遺産関係者向けの交流会議を行います。助成団体の活動報告等による地域の情報交換の場としてシンポジウムを行うほか、7月にリニューアルオープンするサッポロビール博物館の特別見学会等を行う予定です。

◎メイン事業② 北海道遺産フェス in チカホ 及び

開拓使麦酒醸造所誕生 150 周年・北海道遺産 25 周年記念

サッポロビール博物館見学&シンポジウム&ジンギスカンを食べる会 (11/3)

今年度は、札幌駅前通地下歩行空間（チカホ）とサッポロビール博物館の 2 か所を会場に実施します。チカホ会場では、北海道遺産のパネル展示・写真展のほか、地域団体の出展ブース、ステージでの地域 PR タイムなど、地域団体の魅力の発信の場として実施します。また、トークセッションや公演など来場者が北海道遺産を知り、五感で体感してもらうイベントとなるよう、親和性のある事業者からの魅力的な事業提案を喚起し協働で実施します。

サッポロビール博物館会場では、広く一般の方も対象に「サッポロビール博物館見学&シンポジウム&ジンギスカンを食べる会」の参加募集（有料）を呼びかけ、昼間に博物館を自由見学していただき、夕方からは誕生 150 周年を迎える開拓使麦酒醸造所や同じく創基 150 年の北海道大学（札幌農学校第 2 農場）に関するシンポジウムを行うほか、一般の方々も交えた北海道遺産「ジンギスカン」の食体験などのプログラムを実施します。

◎期間中実施事業 「北海道ヘリテージマンス 2026 関連イベント」情報発信

ヘリテージマンス期間中に担い手団体が行うイベント等の情報を収集し、「北海道ヘリテージマンス 2026 関連イベント」として、当団体ウェブ、SNS 等で発信します。

e.全道的なプロモーション媒体の制作・活用

昨年度実施したデジタルスタンプラリー、フォト&短歌チャレンジ等の実績も踏まえ継続していくほか、北海道遺産選定のポイントでもある“地域の人”にスポットをあてた取組など、PR 媒体の制作・活用を推進します。昨年度から制作している共通 PR ツールについても第 4 回選定分までの制作を着実に進めます。また、包括連携協定を結んでいるシーニックバイウェイ協議会と協働で「シーニックバイウェイ×北海道遺産連携パネル展示」を実施（10/30～11/12）。展示期間内の 11 月 1 日には、地域団体のブース設置やパンフレット配布を行い、来場者に取組の周知を行います。

（２）地域活動促進支援事業

1）部会運営

地域の担い手団体等が求める支援は多様化しており、より一層、実働的な体制を整備することが必要になっています。このため、法人運営と事業推進の実務を担うワーキングチームとして部会を設置することとします。

○600 千円

①企画部会

主に地域支援活動の総合企画・調整、寄附金・協賛金の新規獲得、公的資金の活用、関係機関との連携を促進します。また、計画及び事業の目標や成果、改善策について検討をし、必要な助言を行います。

<主な協議事項>

- ・民間企業等による遺産活動パートナーシップ事業提案制度の整備
- ・プロモーション基盤の整備（フレーム検討・遺産カルテの検討）
- ・助成事業の広報プロモーション
- ・寄附金新規獲得・公的資金の活用等の推進
- ・マイスター事業等の検討

②事業推進部会

企画部会と合同で検討・作成した、各年度の実施事業のフレームに基づき、部会メンバーの専門性やネットワークを活かして、各事業の具体的内容の企画・運営を行います。

<主な協議事項>

- ・広域先導モデル事業の伴走支援
- ・プロモーション基盤の整備（コンテンツ収集）
- ・助成事業、企業等提案事業の推進サポート
- ・市町村を巻き込んだ展開の推進
- ・現長期ビジョンの検証と次期案の作成

③助成事業等審議部会

助成事業等について、透明性、公正性を確保し、助成先の選定及び円滑かつ効果的な事業の実施に関し、協議会および事務局に必要な提言、助言を行います。令和 7 年度については、「保全活用推進事業（伊藤園助成事業）」「地域活動促進支援事業（ほっかいどう遺産 WAON 助成事業）」について審議します。

<主な協議事項>

- ・助成事業等実施要綱等の協議
- ・助成先等の審議
- ・助成事業等の運営や変更について事務局から諮問があった場合の助言